

vol. 273

Spring 2023

お茶の水女子大学の今を伝える広報誌

Ochadai GAZETTE

お茶大ガゼット

Contents

- 02 私たちのDEI宣言
佐々木 泰子
お茶の水女子大学長
- 04 未来につなぐ お茶の水女子大学
創立150周年記念事業
加藤 美砂子
理事・副学長(総務・理系女性育成・創立150周年事業担当)
- 08 教員紹介
野田 響子
基幹研究院自然科学系 助教
- 09 卒業生紹介
酒井 佑理 さん
文教育学部人文科学科 卒業
- 10 附属学校園からのお知らせ
附属中学校

私たちの DEI宣言

(多様性・公平性・包摂性)

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

新しくお茶の水女子大学のお仲間になられた皆さんに心からお慶びを申し上げます。

お茶の水女子大学は東京女子師範学校として1875(明治8)年に設立され、アメリカのセブンスターズ¹やイギリスのケンブリッジ大学の女子カレッジであるニューナムカレッジとほぼ同じ長さの歴史を持つ伝統ある女子大学で、2年後の2025年には創立150周年を迎えます。そのことを歴史に刻むために、昨年11月29日の大学の創立記念日には、大学ホームページに特設サイトを開設するなど、学生・教職員のみならず、卒業生や旧教職員の皆さまはもとより、すべてのステークホルダーの皆さまとともに喜びを分かち合うことができるよう準備を進めています。

お茶の水女子大学を訪れた方はどなたもお気づきのように、本学は都心にありながら、大学関連施設をはじめ各附属学校園の位置するキャンパスは豊かな緑に包まれています。構内には数多くの桜の木があり、卒業、

入学とともに祝うかのように春になるといっせいにピンクの美しい花をつけます。

東京女子師範学校時代から関東大震災で焼失するまでの校舎敷地は、江戸時代の学問所、湯島聖堂(当時男子高等師範学校として使われていた)の西隣に位置していました。大学の同窓会である「桜蔭会」の名は、その地に江戸時代から「桜の馬場」とよびならわされるほど桜の木が多かったことに由来するようです。

ところで、昨年12月にはあらたに講堂中庭に桜の木が1本植樹されました。この植樹は本学より4年早い2021年に150周年を迎えたケンブリッジ大学ニューナムカレッジで、150周年記念として取り組んでいる、世界中に150本の木を植えるプロジェクト(Global Tree Planting Project)へのお誘いがあり、実現したものです。この桜の植樹は伝統ある女子大学同士の連帯とともに植樹とおして地球温暖化を防ぎ、共に持続可能な世界の実現に貢献するという決意を示すものでもあります。

桜以外にも正門(国の登録有形文化財)か

ら大学本館へ向かうイチョウ並木をシンボルに、四季折々のたくさんの樹木と草花が植えられています。本館の前には立派なキンモクセイの木があり、初秋に花が咲くと素敵な香りがあたり一面に漂います。この木



は本学の卒業生であり、日本で初めての女性理学博士となられた保井コノ教授と尾上紫舟の号で著名な歌人・書家であった尾上八郎教授によって植えられたものということです。東京の気候はキンモクセイには寒すぎるために、今のように大きく立派に育てるまでには多くの苦心があったようです。これらの木々は本学附属小学校の児童たちが折に触れ歌う「わたしたちの歌」でも口誦されています。このように私たちの学園には、他にもツバキ、オリーブ、百日紅などなど、3000本以上の樹木が植えられているのです。

ジャン・ジオノが著した『木を植えた男』では、プフィエという主人公が人知れず木を植えて緑豊かな森を再生します。そこでは、それまで厳しい自然の中で暮らす人々の間にあった争いもなくなり、さらに多くの人たちが移り住み、やがて平和な村が出現します。この作品はアニメーションや絵本にもなっており、ご存知の方もいらっしゃるかと思います。フィクションではありませんが、人々の間に木を植えることや森や自然の大切さを、そして自然は私たちに幸せや平和を愛する心や生きる喜びをもた

らすことを強く訴えました。本学でも、同様の願いから、「キャンパスマスタープラン2021」で、キャンパス内の樹木の保存・継承、及び現存する自然環境の教育への活用による維持・保全を推進するために、緑の多いキャンパスを維持し、持続可能なキャンパス環境の実現を目指しています。

お茶の水女子大学は「学ぶ意欲のあるすべての女性にとって、真摯な夢の実現の場として存在する」というミッションを掲げ、多様性・公平性・包摂性を礎とし、平和で持続可能な地球社会を実現するための様々な取り組みを行っています。このたび、大学という新たな世界へと歩みを進められた新入生皆さんには、自然豊かなキャンパスでのびのびと、先生方や友人たちとともに学ぶことの楽しさを肌で感じ、心躍る対象を見つけ、失敗を恐れず、多くの経験をしてほしいと思います。大学では、専門の知識を学び深めるだけでなく幅広い教養を身につけるとともに、多様なバイオーム(Biome)が接続している世界や皆さん自身の将来、そして地球の未来について考えることのできる機会を提供しています。

世界は今、気候変動とそれに伴う大規模自然災害、食糧問題、感染症との戦い、格差の拡大と社会の分断、さらには国家間の紛争などのグローバルな課題と向きあっています。持続可能で誰もが幸せに生きることのできる社会を実現するために私たちに何ができるかを皆さんとともに考え・挑戦することで、現代の世界の女子大学としてジェンダー平等を超えた新たな価値を共創し、未知の問題解決に取り組んでいきたいと考えています。

さあ、一緒に、
ここに「私たちのDEI宣言」を!



2023年4月
お茶の水女子大学長

佐々木 泰子

¹ アメリカ合衆国北東部の名門女子大学(マウント・ホリヨーク大学、スミス大学、ウェルズリーカレッジ、バーナードカレッジ、プリンマーカレッジ)の総称。なお、ヴァッサー大学は男女共学化され、ラドクリフカレッジは、ハーバード大学と統合した。

未来につなぐ お茶の水女子大学

創立150周年 記念事業

お茶の水女子大学は、2025年11月29日に創立150周年を迎えます。これに向けて特設サイトを開設し、様々な記念事業を実施していきます。今回の特集では、本学の創立150周年記念事業実行委員会委員長の加藤美砂子理事・副学長にお話を伺います。

赤松:今日は、お時間をいただきありがとうございます。最初に、創立150周年記念事業の実行委員会について教えていただけますか。

加藤:創立150周年記念事業委員会実行委員会には、7つの分科会(※下図)があり、2021年7月に第1回を開催して以降、すでに6回の委員会を開催し、進捗状況報告や今後の取組

について話し合っています。

赤松:7つの分科会では、どのような取組をされていますか。

加藤:たとえば、150年史分科会は、お茶の水女子大学の150年の歩みをまとめた150年史を作成しており、2025年の記念式典

で、150年史に関するパンフレットを配り、2027年3月に『お茶の水女子大学150年史』を刊行する予定です。

赤松:150周年基金分科会も活動を始めていらっしゃるのでしょうか。

加藤:2022年11月29日に150周年特設サイトを立ち上げ、記念募金の依頼をスタートさせました。寄附金を集めるには、何のために集めるのが重要になります。150周年記念事業について説明するために、リーフレットや趣意書を作成しました。150周年基金分科会では、このように寄附金の募集に向けた準備を行っています。ご寄附いただいた方には、お名前を刻銘した銘板を、同窓会館跡地に建設予定の複合施設に掲示する予定です。

赤松:お名前があるとみなさん、新しい施設に行ってみてみたい気持ちになりますね。

加藤:創立150周年記念事業は、みなさんに関わってみたいと思っています。シンボルマークも、在学生、卒業生はもちろん、附属学校園の生徒を対象に募集して作りました。シンボルマークは、記念募金のお願いにあたっての封筒やクリアファイルなどに

も活用しています。これは、記念物品等分科会が担当しており、これから記念式典で販売する物や贈呈品を作る予定です。シンボルマークは、教職員のみなさんの名刺にも入れていただくなど活用して、創立150周年を周知していきたいと思っています。

赤松:国際コミュニケーション分科会は、どのようなことをしているのですか。

加藤:記念関連イベントを開催したり、協定校からメッセージをいただいたりする予定です。

赤松:広報分科会が制作した150周年特設サイトで募集している「150のメッセージ」にも、本学で学ばれた留学生や海外在住の卒業生などからメッセージが届いています。150周年を海外からもお祝いいただけるのはうれしいですね。

加藤:はい。みなさんと一緒に盛り上げたいと思っています。

赤松:学生分科会もありますが、学生による企画もあるのでしょうか。

加藤:150周年が2025年ということもあり、まだ具体的には始まっていませんが、学生のみなさんにもいろいろな形で盛り上げて欲しいと思っています。このGAZETTEを手取る学部の新入生は、2025年に3年生となります。ぜひ、創立150周年事業に積極的に関わっていただきたいと思っています。

赤松:祝賀の機運を高めていくにあたり、記念式典分科会では今後どのようなイベントを予定しているか教えてください。

加藤:2025年11月29日に記念式典を開催しますが、それだけではなく、2025年には、創立150周年を記念した様々なシンポジウムやセミナーを企画する予定です。委員会が企画するだけでなく、各部局での企画でも、150周年を盛り上げたいと考えています。

赤松:セミナーやシンポジウムに、150周年の冠をつけることで、広く周知もできますね。最後にみなさまへのメッセージをお願いします。

加藤:本学は1875年東京女子師範学校として創立されました。それから、150年間、途絶えることなく女子教育を継続してきた歴

史には、非常に重みがあります。お祝いすべきこと、お祝いしたくなることだと思います。たとえば、昔は誕生日というと、ケーキを食べられるのがうれしいぐらいに思っていたのですが、だんだん、年をとって誕生日を迎えると、この年まで健康でいられるのが、うれしいとなりますよね。これと似ていると思います。150年も存続し、発展しているお茶の水女子大学の150年目のお誕生日を、みなさんとお祝いしたいと思っています。ただ、150周年というのはお祝いして終わりではなく、新たな出発点です。これから先、どう変わるかわかりませんが、次の時代を目指して、常に発展し続ける大学でなければいけないと思います。

赤松:2023年は、150周年まであと2年の年です。在学生、卒業生、教職員、そして関係者みなさんと一丸となって盛り上げていきたいですね。本日は、たくさんのお話をありがとうございました。

聞き手: 赤松 利恵
広報・学術情報担当副学長、広報推進室長
基幹研究院自然科学系 教授

創立150周年記念事業委員会

実行委員会 委員長: 加藤理事

分科会

記念事業の具体的検討、企画及び実施

150年史 150周年基金 記念式典 記念物品等 広報 学生

国際コミュニケーション

■ 図 お茶の水女子大学 創立150周年記念事業委員会体制

加藤 美砂子

理事・副学長

(総務・理系女性育成・創立150周年)
事業担当

2021年度より現職。お茶の水女子大学教授。専門は、植物生理学。

創立150周年特設 サイトのご紹介



ぜひご覧いただき、祝賀の機運を 高めていただけますと幸いです。

150年の歩み

本学の歴史をご紹介します。特設サイトから校歌「みがかずば」を視聴いただくこともできます。



校歌「みがかずば」

1875~

開校と 女子高等師範学校への変遷



東京女子高等師範学校 太田金山遠足の光景

1923~

震災からの復興。新校舎で切る新たな門出



現在の新校舎

1949~

そして、「お茶の水女子大学」へ 国立大学法人化 “真摯な夢の実現の場” として存在



正門

2004~

2025~

創立150周年。さらなる発展に向けて

日本の国立女子大学として最も古い歴史を有する本学は、2025年に創立150周年を迎えます。これを新たな始まりと捉え、今後もさまざまな取組を行っていきます。



150のメッセージ

卒業生、在校生、教職員、関係企業等の皆様からのメッセージをご紹介します。創立150周年の記念日まで、150人・グループの掲載を目標に、つながりをひろげていきます。ぜひ、メッセージをお寄せください。詳細は、特設サイトをご覧ください。

例えば：



共に学ぶ：図書館でのピア・サポート (LALA)

お茶の水女子大学創立150周年 記念募金に関するお願い

本学が将来にわたってグローバル女性リーダーを社会に輩出し続ける拠点であるために、創立150周年を迎えるにあたり、4つの記念事業を計画いたしました。この記念事業を通して教育・研究活動の充実化により一層取り組んでまいります。皆様のご賛同およびお力添えを賜りますよう、お願い申し上げます。

4つの記念事業

(1) 創立150周年記念プロジェクト事業

令和7年(2025年)11月29日の本学創立記念日に、創立150周年記念式典を挙行 記念式典に前後して関連イベントの開催 先端的教育・研究をテーマとした講演会・国際シンポジウムなどを開催

(2) ESGキャンパス整備(同窓会館跡地整備)事業

大学に隣接する同窓会館跡地に新しい複合施設を建設予定

(3) 創立150周年記念学修支援奨学基金事業

未来を支える人材を育む大学の機能強化と新たな時代に対応する学びの支援の充実

(4) 創立150年史編纂事業

令和8年度(2026年度)に刊行予定の『お茶の水女子大学150年史』編纂のための事業

◆新入・編入・転入生の皆様へ

入学年の12月末日までのご寄附は 寄附金控除の対象外です。

◆寄附者からのメッセージ

150周年特設サイトでは、インターネットからご寄附いただいた皆様からのメッセージをご紹介します。皆様からのメッセージをお待ちしております。



<https://150th.pr.ocha.ac.jp/donations/>

創立150周年記念事業シンボルマークのご紹介

記念事業で使用されるシンボルマークは、在学生、卒業生・修了生、教職員(元教職員含む)、附属学校園の生徒・児童・園児、その卒業(園)生を対象に募集したところ、多くの応募作品が集まりました。創立150周年記念事業委員会における厳正なる審査の結果、最優秀賞1点、優秀賞5点が決定しました。最優秀賞を受賞された、文教育学部言語文化学科3年(※学年は受賞当時)の山本千智さんにインタビューを行いました。

シンボルマークのコンセプトを教えてください。

お茶大の歴史を代表する正門には、明治時代の女学生。女子教育の先達として道を切り開いてきた150年、女学生はこれからも全ての人が幸せに暮らせる社会の実現を目指し、未来を指差しています。これは同時に、お茶大がいつ



の時代も女子大として最高峰にあり、優秀な女性を育てているという自負と誇りを示した1本指でもあります。女学生と150の文字をつなげ、150年を迎えたあとも、その姿勢は引き継がれていくという願いを込めました。

応募されたきっかけや工夫された点を教えてください。

もともとデザインに興味があって、募集期間が延長されたことを知り、Adobe illustrator(デザイン用ソフト)を使用しながら春休み期間に制作しました。特に苦労したのはカラーリングです。色次第でマーク全体の印象が大きく変わるため、10種類以上のパターンを作成しました。中央の女学生の着物は「お茶」の緑色を使用し、お茶大らしさを意識しながら、象徴としての正門と、袴を着用した女学生を配置し、歴史を表現したところがポイントです。

受賞後の反響はありましたか。

家族や友達、教員から「すごい!」と褒めてもらい嬉しかったです。デザインは趣味でやっていたことから、作ったものを人から評価されるといった機

会はなかったため、自信ができました。

山本さんご自身の今後の決意があればお聞かせください。

4月から4年生になり、学生生活最後の1年となります。悔いが残らないように過ごし、卒業論文や就職活動にも力を注いで、充実した日々を送りたいです。また、創立150周年を迎える際は卒業してしまっているので残念ですが、特設サイトをはじめ、自分の作ったシンボルマークがどのように使われていくのか見守ってきたいです。



担当：工藤 和恵 基幹研究院自然科学系 准教授

教員紹介

Interview

野田 響子 先生

基幹研究院自然科学系 助教

Profile

東京都出身。お茶の水女子大学生活科学部を卒業後、同大学大学院人間文化創成科学研究科に進学し、博士(学術)の学位を取得。本学など大学の非常勤研究員や公設試験場の研究員を経て、2021年4月に本学に着任。



Kyoko Noda

食品の加工・貯蔵による変化を、
化学的に解析する

Q1 ご専門の研究について、お話を聞かせてください。

食品の加工、貯蔵中に起こる変化で、特にメイラード反応(アミノ・カルボニル反応)による色調の変化について研究しています。メイラード反応とは、アミノ酸やタンパク質と糖の反応で、その現象を発見したフランスの生化学者、Maillardの名前からそのように呼ばれています。クッキーやパンを焼くと、生地が茶色くなり、香ばしい匂いがしてくると思いますが、これらの変化はメイラード反応によるものです。他にも、ビールや醤油、味噌といった発酵食品の色や香りの形成にも関与します。このように、メイラード反応は食品の品質に影響を与えるため、特に品質の変化として分かりやすい色素化合物について、具体的にどのような物質が生成し、どのような反応機構で生成するのか、化学的に解析しています。ただ、食品中には様々な物質が存在し、加工中にはメイラード反応の他にも様々な反応が複雑に関与しています。いずれは色素化合物、メイラード反応といった枠を超えて研究したいと考えています。

Q2 どのような経緯で、現在のご研究を専門にするようになったのですか。

もともと、食べ物の味、香り、色を形成する物質が、どのような構造をしていて、どのように生成するのか、ということに興味はあったのですが、実は大学で食品化学や食品製造・保存学を学ぶまで、メイラード反応のことは全く知りませんでした。正直にお話すると、きっかけは受動的で、研究室選びの時に自分の興味が一番近かった研究室を選んだ結果、卒業論文でメイラード反応の研究に取り組むことになりました。大学院に進学することは考えていましたが、当時は博士後期課程にまで進学することは想像もしていなかったため、今でも興味深いと感じるテーマに出会ったことや、恩師の村田容常先生にご指導いただいたこと、出身研究室を引き継がせていただいたことは、とても幸運なことだと思います。

Q3 研究のおもしろさって、どんなところですか。

あれこれ考え、試行錯誤しながら実験をする過程をおもしろく感じます。実験の結果、予想と反することが起こったとしても、人為的ミス

ではない限りそれも失敗ではなく、大事な結果です。研究で明らかにできるのはほんの一部ですが、どうしてそうなったのか、どうしたらその現象を説明できるのか、考えて工夫した結果、未知の物質の構造が明らかになったり、未解明の反応機構の一部を説明できるようになると、とてもうれしく思います。

Q4 お茶大生に向けて、メッセージをお願いします。

人生において選択する機会は多く、間違ってしまうこともあります。ですが、間違えたとしても、自分の選択に後悔しないしてほしいと思います。たとえ選択を間違ってしまったとしても、後悔するかどうかは、自身がどう過ごし、どのようにとらえるか、が深く関わっていると思います。お茶大で漫然と過ごすのではなく、何をやりたいのか、何を学びたいのか考えてみてください。私も教員として、皆さんのやりたいこと、学びたいことが提供できるよう、がんばります。みなさんがお茶大に入学したことを後悔することなく、お茶大で過ごした期間がかけがえのない時間になることを願っています。

担当:西村 純子
基幹研究院人間科学系 教授

Q1 現職に就くまでの経緯を教えてください。

高校時代に尊敬する教師に出会い、教職を志すようになりました。哲学がおもしろそうだと思って人文科学科に進学しましたが、実は、高校時代には社会科が大の苦手で、大学院に進学したら国語科の免許を取得しようと考えていました。しかし、社会科の教員免許を取得するために受講した大学の授業はどれもおもしろく、私も社会科の授業を通してこのおもしろさを伝えたいと思うようになりました。特に、古典を講読する哲学コースの授業で、時代背景をふまえるとより理解が深まるということに気がついてからは、歴史に対する関心がますます高まりました。

ところが、教育実習では理想に対して思うようにいかないことも多く、本当に教員という進路で良いのかと悩みました。そこで、大学院進学後は教員を目指す学生のための講座に参加し、附属校に加えて公立校でもインターンシップ活動を経験しました。そこで現代の教員を取り巻く様々な課題を捉え直し、素晴らしい先輩方や生徒たちと出会うことで、改めて教職に就きたいという思いを強く持ちました。

教員としての経験を重ねる中でコロナ禍によるオンライン授業への需要も高まってきました。そのため、私はICTを活用しながら生徒が積極的に参加できる授業を意識しています。

現在勤務している北鎌倉女子学園は、iPadを早期に取り入れ、ICTの活用を強力に進めています。また、コミュニケーションを密にし、教員と生徒の距離が近いことが魅力です。これからも、今までに出会ってきた恩師や先輩方のように、生徒たちに真摯に向き合いたいと考えています。

Q2 お茶大での経験は仕事にどう役立っていますか。

大学で得た知識を授業づくりに役立てています。また、大学院ではアクティブ・ラーニングの実践をテーマにインターンシップ活動をしてきたため、授業では様々な活動を積極的に取り入れています。同時に、学校教育に携わる様々な方と接する機会を得て、より良い教育を目指す姿勢が身についたように思います。直接的ではありませんが、哲学コースでは、何か知りたいことを相手が持っていると感じて、相手の言葉を受け入れようとする心構えを学びました。それは、授業などで哲学者の著作に対して、そして先生方や他の学生にも「どう考えているのか、なぜそう考えるのか」を問いかけることが多くあったからです。このような心構えを持って積極的に働きかけることは、生徒や保護者、他の教員など様々な人と関わる上でも必要だと感じます。

Q3 在学生へのメッセージをお願いします。

私にとって、大学時代はかけがえのない出会いが多くあったときでした。哲学コースで長い時間をかけて様々なことを語り合った友人や先輩方とは今でも親しくしており、深く考えたいときや悩みがあるときには大学時代に戻ったかのようにじっくりと話をしています。教職を目指す中で出会った方々とは簡単に連絡を取ることにはできませんが、心の中でいつも私を奮い立たせてくれる存在です。困難な状況でも、生徒たちのために頑張る仲間が学校内だけでなく外にもいるのだと思うと、おおいに勇気づけられます。このような素晴らしい出会いを経たからこそ、私はいま目の前にいる生徒たちとの出会いに感謝し、大切にできるのだと思います。在学生のみならず、お茶の水女子大学で素敵な出会いを多く経験されることを願っています。

担当:中野 裕考
基幹研究院人文科学系 准教授



卒業生紹介

Interview

酒井 佑理 さん

北鎌倉女子学園

Profile

2017年3月、文教育学部人文科学科哲学・倫理学・美術史コース卒業。2019年3月、人間文化創成科学研究科比較社会文化学専攻思想文化学コース修了。現在、北鎌倉女子学園に勤務。



出会いに感謝して、
目の前の生徒を大切に

Yuri Sakai

附属学校園からの お知らせ



お茶中は時代とともに

コロナ禍に突入して早3年。大きく変化してお茶中は、もはやコロナ禍以前のお茶中を経験していない生徒のみとなってしまいました。しかしお茶中生はそんなことは物ともせず、不安定な状況を叡智とやる気を結集して乗り越えてきました。



前年度からの大きな変化といえば、少しずつ行事での規制が緩和されたことが挙げられます。今年度は、体育大会での保護者の参観が3年生の保護者のみ許可されました。生徒は前年通り応援席の間隔を取り、声を出さないようにうちわを使って工夫して応援をしました。

また、生徒祭のオープニングセレモニーは、全生徒が講堂に集まって行うことができました。これは3学年全員にとって初めてのことで、パフォーマンスをする側も見る側もワクワク。そし

て、中学の生徒保護者と附属小学校生徒と保護者の参観ありで教室展示も行われました。これも初めてのことで、少し照れくさい気もしながら各々の発表を精一杯行いました。また、役員会の発案で生徒祭期間中にウクライナの子どもたちへのユニセフ募金を行いました。在校生だけでなく、参観に来てくださった皆様にもご協力いただきました。ありがとうございました。

また行事以外にも、夏には以前から目安箱に複数人から投書されていた「自由服期間を

伸ばしてほしい」という意見に応じ、役員会から先生方に要望書を提出し、2週間ほどの延長が実現しました。生徒からは「以前より長くなったので良かった」という声が多かった一方で、「夏服を着る期間が短くなってしまうのではないかと、制服の意義を疑問視する声もありました。

今年度は伝統ある制服に対しても大きな変化があった年でした。現在のセーラー服と学ランという制服を、ジェンダーレスに対応させる



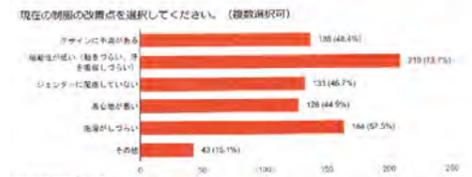
べきだという意見が生徒から投書され、それに基づいて全生徒に2回に亘ってアンケートを実施しました。回答の傾向として、「現在の制服は存続させるべき」と考えつつ、「新しい制服の形を作るべき」と考えている生徒が多数でした。この回答から、役員会として「現在の伝統ある制服とジェンダーレスの共存」を掲げ、現在も検討を進めています。

私達はこの3年間、予測のつかない状況の中でも、工夫をこらして今できる最善のことを

実現してきました。変わっていくことを恐れず、事態に柔軟に対応していくことができるお茶中生の精神を、これからも引き継いでいってほしいと思います。

生徒会長 鍋田 侑希

〈第1回 制服に関するアンケートのまとめ〉
みなさんこんにちは！役員会です。先日は制服に関するアンケートのご協力、ありがとうございました。アンケート結果をまとめたので以下に記します。



その他の意見では、
・男女ともに透視を減らしたい。(温度調節がしにくい、熱がこもる、汚れやすいなど)
・ベルト・袖口のホールを廃止してほしい。(ダサい、重い、外の視線が気になるなど)
・ジェンダーレスの観点から、女子の制服にズボンを導入するべき。
・裾下を白だけでなく、黒や紺もありしてほしい。
・女子の制服のセーラー服のVネックの部分に布を付けてほしい。
・セーラー服ではなくブレザーがいい。せめて半リズカートをなくしてほしい。などがありました。

▲ 第1回制服に関するアンケートのまとめ(一部抜粋)

附属学校園での出来事 2023年1月～3月

Mar. 3

Feb. 2

Jan. 1

- 附属高等学校**
 - ・始業式・大学入学共通テスト(3年)
 - ・学力テスト(1・2年)
 - ・保護者会(1・2年)
- 附属中学校**
 - ・始業式・路線別一斉下校
 - ・保護者参観週間(1・2年)
 - ・特別時間割期間(1・2年)
 - ・課題発表セミナー(1年)
- 附属小学校**
 - ・始業式・保護者会(6年)
 - ・2年学年活動もちつき
 - ・卒業生の話聴く会(5年)
- 附属幼稚園**
 - ・始業式・春を祝う会
 - ・クラス懇談会
 - ・教育実習事前指導(3年生)
 - ・1月誕生会・避難訓練
 - ・3歳児親子で遊ぶ日・親子体操の会
- いずみナーサリィ**
 - ・雪遊び・霜柱氷遊び・足湯
 - ・避難訓練(地震・食事中・室内待機)
 - ・個人面談
- こども園**
 - ・始業式・誕生会
 - ・避難訓練・安全指導
 - ・表現遊びの会(4歳児)
- 附属高等学校**
 - ・入学検定・合格発表
- 附属中学校**
 - ・入学検定・合格発表
 - ・自主研究ポスター発表(2年)
 - ・期末テスト(全学年)・防災学習(1・2年)
- 附属小学校**
 - ・公開研究会(オンライン)
 - ・6年学年活動めぶく祭り
- 附属幼稚園**
 - ・豆まき・公開保育研究会
 - ・5歳児バス遠足
 - ・2月・3月合同誕生会
- いずみナーサリィ**
 - ・5歳児親子で遊ぶ日
 - ・節分
 - ・避難訓練・初期消火訓練
 - ・抜き打ち、火災、主任不在、屋外避難
 - ・保護者会
- こども園**
 - ・豆まき・誕生会・避難訓練・安全指導
 - ・表現遊びの会(3歳児)
- 附属高等学校**
 - ・新入生説明会・期末考査
 - ・答案返却・卒業式予行・歓送会
 - ・卒業式
 - ・SSH生徒成果発表会・修了式
- 附属中学校**
 - ・保護者会(3年)・音楽行事・歓送会
 - ・卒業式・学力テスト(1・2年)
 - ・修了式・保護者会(1・2年)
 - ・Spring English
- 附属小学校**
 - ・授業参観・保護者総会・かがみ会総会
 - ・郊外園ジャガイモ苗植え等(5年)
 - ・1年学年活動すこやか祭り
 - ・附中生のお話を聴く会(4年)
 - ・卒業おめでとうの会
 - ・校外学習(1・5年)
 - ・保護者会(各学年)・個人面談
 - ・卒業式・修了式
- 附属幼稚園**
 - ・ひなまつり・5歳児お楽しみ会
 - ・PTA総会・卒業式
 - ・3歳児・4歳児終業式
- いずみナーサリィ**
 - ・ひなまつり・親子で遊ぶ日
 - ・避難訓練・抜き打ち、地震・室内待機または屋外避難
- こども園**
 - ・にこにこ動物園
 - ・ひなまつり・誕生会
 - ・お別れバス遠足(4歳児・5歳児)
 - ・デイキャンプ(5歳児)
 - ・卒園式・終業式



表紙について

御歌碑 (大学本館前: 藤原正彦名誉教授寄贈)

みがかずばは、お茶の水女子大学の前身である東京女子師範学校の開校にあたり、皇后(昭憲皇太后)から、明治9(1876)年2月に下賜された御歌です。この歌には、明治11(1878)年10月に式部寮雅楽課二等伶人東儀季熙による壹越調律旋の譜が付されました。その後、「女子高等師範学校記事」によると、明治29(1896)年に、高等師範学校に依頼して御歌の撰譜をし、西洋風の旋律に改められ、現在も校歌として歌い継がれています。

平成18(2006)年10月17日、3年間に及ぶ本館の改修完了を記念して、大学本館改修記念式典が行われました。本館正面には校歌「みがかずば」の御歌碑が新たに設置され、この除幕式も併せて行われました。



お茶の水女子大学は
2025年に創立150周年を迎えます

ご意見・ご感想はこちらまで

企画戦略課広報担当

電話: 03-5978-5105 FAX: 03-5978-5545

E-mail: info@cc.ocha.ac.jp

URL: <https://www.ocha.ac.jp/>



本誌、およびバックナンバーは、
本学ホームページに掲載されています。
どうぞご覧ください。



お茶の水女子大学
Ochanomizu University